

## 令和2年度学位記授与式式辞

令和3年3月20日（土・祝）

アイザック小杉文化ホール ラポール

本日、新田富山県知事を始め多くのご来賓の皆様をお迎えし、令和2年度富山県立大学工学部・大学院工学研究科の学位記授与式を挙げることは、誠に喜びに堪えません。これも、ご来賓の皆様をはじめこれまで本学の教育・研究を支えてくださった多くの関係の皆様のご支援、ご尽力の賜であり、教職員を代表し、心から御礼を申し上げます。

そして、今日の佳き日を迎えられた工学部・大学院、計411名の卒業生・修了生の皆さん、今日の卒業、修了を心よりお慶び申し上げます。

また、新型コロナウイルスが確認されて以降、感染が拡大したり縮小したりする中で、皆さんに数々の不便をお願いしましたが、状況を踏まえた皆さんの対応に改めて感謝を申し上げます。

学位記授与式に先立って、私は「頂でみる景色」という言葉を卒業アルバムに書きました。この言葉を書くにあたっての私の考えをこの機会に詳しくお話ししたいと思います。

研究のプロセスはよく登山に例えられます。皆さんの中には登山が好きな人もいるでしょう。これから私の話に出てくる山は、実在するものではなく、私の空想上の人跡未踏の山です。麓から、木々が生えている樹林の中を山頂に向かって登っていくと、そのうち、木々が途切れて石ころだらけの山肌と山頂が見えてくる。山頂は視界のすぐ先にあるけれど、歩いてもなかなかその距離が縮まらない。そういえば、樹林の中では、道に迷いそうになった。今、山頂が見えるや雨が降り始め、酸素が薄くなったのか頭が痛い。しかし、遂に畳一畳ほどの山頂に到達すると、ちょうど運よく、雲がきれて、富山湾が一望でき、振り向けば北アルプスの大パノラマの向こうに富士山が見える。山頂に立って初めて見る多くの山々、登ってきた山の高さや道の陰しさ、次に登りたい山の発見、など頂から見ると景色は、頂に立った人にしか分からない。

実際にはこのような山は存在しませんが、皆さん、想像をたくましくしてください。山に登るためにお弁当を持たせてくれた家族、迷いそうになったとき、

息が苦しくなったときに、適切なアドバイスをくれた先達。そして、山頂に立ったときが、皆さんのたゆまぬ努力の実を結んだ瞬間です。私は、みなさんが卒業論文、修士論文、博士論文を通してこのような山頂を極める成功体験をしたものと確信しています。最初に論文の研究課題を設定したとき、どう解決できるのか不安で一杯で、しばしば道に迷いそうになったり、論文提出前には息切れしそうになったことでしょう。徒然草に「先達はあらまほしき事なり」という名言があります。ある僧侶が石清水八幡宮に詣でようとしたところ、八幡宮が山の上にあるのを知らず、麓の寺社に詣でたのみで納得して帰ってしまった。道を教えてくれる経験者は必要だ、というお話です。翻って、皆さんが道に迷いそうになったとき、息切れしたときに、登頂を幾つも経験した教員が、皆さんの傍で共に山頂を目指しながら、適切なアドバイスをしたはずで。

登頂の成功体験は、皆さんが今後別の頂を目指すときに必ず役立ちます。卒業研究の目標はピンポイントなので、果たして、大学の研究が社会に出て役立つだろうかと尋ねられることがあります。安心してください。卒業後、これまでの研究とは異なる仕事や研究を始めたとしても、目標を設定し、目標の意義を考え、従来の研究を調査し、目標にたどり着く方法を考え、計画を立て、データをもとに都度結果を評価する、そのようなプロセスを一度体験した皆さんは、課題解決のこつがわかり、新たな仕事や研究も恐るるに足らず、です。

ところで、大学で研究を進めているときに、研究室のメンバーや同級生や教員と、データや観察に基づいて科学的に議論を交わしたことと思います。科学的な立場から、疑いをもって批判的に論文を読んだこととも思います。そこでは、自分自身を批判的にみる力、相手からの批判的な意見を受け入れられる力、また、相手のことを批判できる力、が身に着いたことでしょう。「批判」という言葉を広辞苑で調べると、一つ目の説明に「物事の真偽や善悪を批評し判定すること」とあります。一人だけで研究活動をする、局所的な最適解の穴底に落ち込んでそこで満足してしまうことがある。でも、周囲の人から指摘や批判を聞く機会があると、その穴から抜け出し、よりよい解に達することができます。皆さんに申し上げたいのは、悪意からではない耳の痛い科学的な批判をしてくれる人を大切にすることです。その人の批判を聞き、議論をすると、これまで考え付かなかったような視点に立って目標を眺められ、新鮮な世界が広がるはずで。もちろん、心が折れない範囲での話です。皆さんも、善意の科学的批判者となることはもちろん、さらには、後に続く登山者に皆さんが先達として接して、経験を未来へ伝承する役目を果たしてください。伝承の中に刻まれた情報はDNAとなって生き続けます。肉体は滅んでも魂や情報は伝承され生き続けます。ご家族や社

会から受け継いだDNAに、皆さんがさらに魂や情報を付け加えて未来に引き継がれていくことを期待しています。

卒業にあたって、教職員全員、皆さんと一緒に頂に立てたこと、また、その登頂の支援ができたこと、さらに、大学入学時にはインターネットの検索に課題の答えを求めたであろう皆さんが、今では、これまでに得た知識をもとに、自分の頭で考えて課題解決ができるように成長したことを、とても誇りに思っています。ビジョンや目標を持ち、その目標に向かって課題を解決できる力は、大学で獲得した最も価値のある能力です。未来をこのようにしたいという目標、家族や社会と幸せを共有したいという目標をもち、そのためにどんな課題があるかを見極め、その課題を解決していく皆さんの活躍を期待しています。初めから完璧な活躍を目指す必要はありません。できるところから、50%、80%と進んでいくとよいと思います。

山口百恵さんが「いい日旅立ち」の歌の中で「私を待ってる人がいる」と歌ったように、皆さんを、地域社会が、日本が、世界が、そして皆さんを必要とする特別な人が待っています。学位記授与式の今日を「いい日旅立ち」の日とし、今後皆さんがすばらしい未来をつくることを信じて、私のお祝いの言葉を結びます。

卒業、修了するみなさん、本日は本当におめでとうございます。

令和3年3月20日

富山県立大学学長 下山勲